

# 設計“正”を起点に 製造まで途切れないデジタルスレッドへ

【QCDの出発点】  
唯一無二の「情報の源泉」を確立する

属人化しやすい設計リスクを見える化、  
過去トラ・知見を“設計資産”として再利用



PLMツール：「Windchill」「mframe PLM」  
「Hi-PerBT PLM」

製品開発のQCD（品質・コスト・納期）を  
フロントローディングで最適化するには、  
設計資産を「マスタデータ」として管理する  
基盤が不可欠です  
PLMにてCADやBOMへと情報連携し、  
信頼できる唯一のデータソースを構築します  
（Single Source of Truth）

## 付帯業務を削減し、そして「攻めの設計」へ・・・

### 1. BOM自動生成とトレーサビリティ

CAD構成からE-BOM（設計部品表）を自動生成。CAD、E-BOM、へと至る  
変更履歴を自動で紐付け、確実なトレーサビリティを確保します

### 2. CAD-EBOM-MBOM連携による手戻り防止

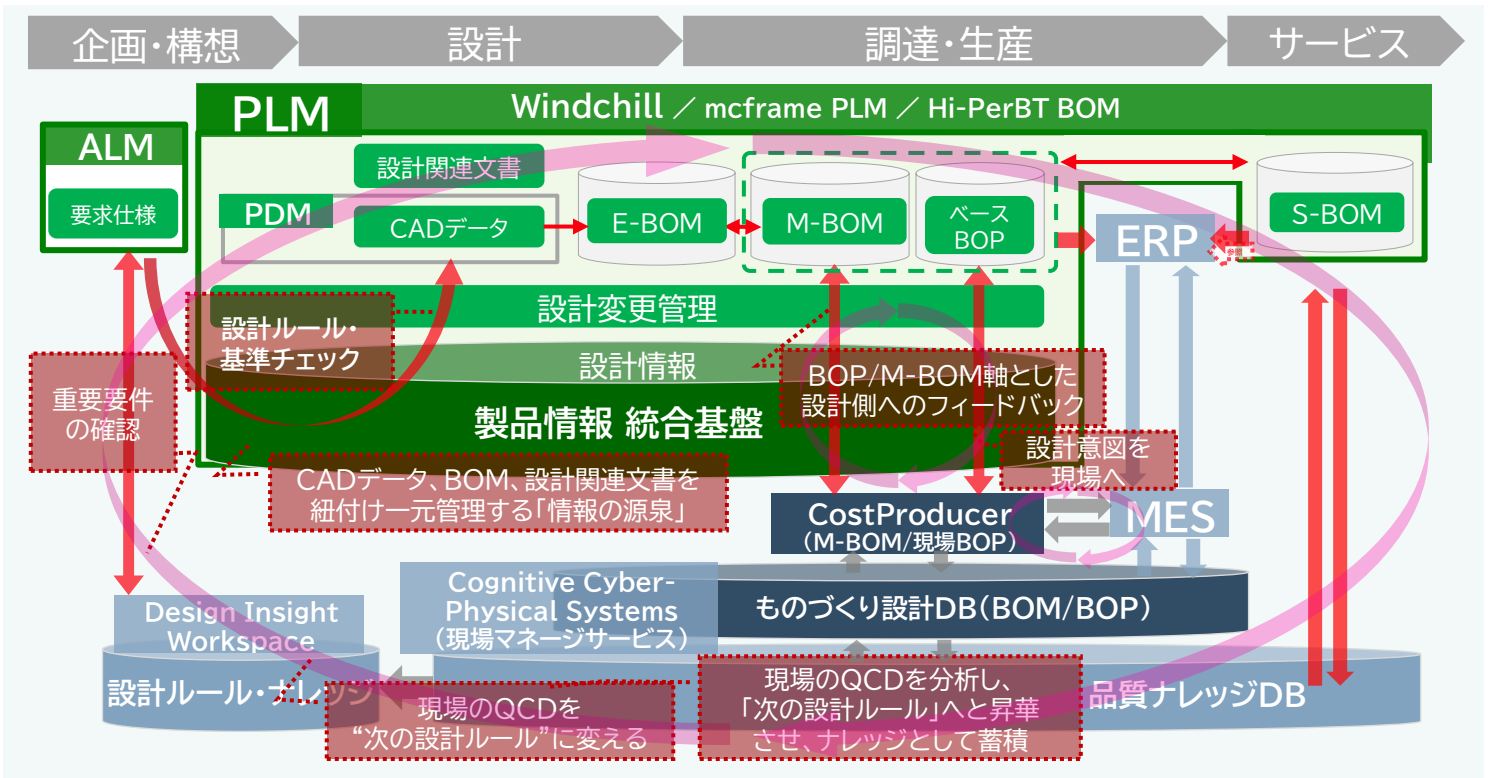
設計（E-BOM）から製造（M-BOM）へのシームレスな展開により、  
設計・製造間の確認工数を削減。設計変更の影響範囲を素早く正確に  
把握し、製造側へ連動させ、下流工程での致命的な手戻りを防止します

### 3. 「攻めの設計」を実現する環境

データ検索や整合性確認といった付帯業務を大幅に削減。  
過去のトラブルシューティングや知見を「設計資産」として再利用し、  
設計者が本来のミッションである企画・開発業務に注力できる環境を提供します

# 生成AI時代のものづくり設計基盤 ～ 設計“正”が揃って初めてチェーンが繋がる ～

PLMにて、設計情報マスタ管理、設計変更管理を実現し、製品情報統合基盤として確立し 設計の“正”を下流へと確実に届けるための土台をつくります。そのうえで、BOP/M-BOMを軸に上流～下流を繋ぐ設計・製造フィードバックループを構築し、上流でのQC/QDつくり込みのデータ利活用を可能とします。



## PLM 導入企画サポート ～ DXの「何から手をつけるか」問題を解決 ～

製造DXの推進には、技術的な導入以上に「業務プロセスの再定義」と「社内合意」が鍵となります。現状把握からロードマップ策定まで、コンサル視点でトータルサポートします

DXプロセス	工程	課題例	サポート例
経営方針・指示 <b>IT施策 企画活動</b> IT施策 実施	<b>現状把握</b> 	・業務フローが未整備／更新されていない	・業務ヒアリング ・ <b>業務フロー整理</b>
	<b>課題抽出</b> 	・ボトムアップの課題があることは認識しているが、構造化できていない、手の付け方がわからない	・課題ヒアリング ・ <b>課題構造整理</b>
	<b>対応方針策定</b> 	・課題が抽出できても、計画的に対応することができない	・課題優先順位付け ・ <b>課題対応ロードマップ作成</b>
	<b>施策概要立案</b> 	・施策立案に向けた情報収集の時間がない ・参考となる他社の業務のやり方に関する情報がない	・ <b>施策概要整理</b> ・事例紹介／新業務フロー立案
	<b>社内合意形成</b> 	・施策を立案しても社内承認が得られない	・ <b>効果試算</b> ・社内向け資料作成

株式会社 日立ソリューションズ

[www.hitachi-solutions.co.jp](http://www.hitachi-solutions.co.jp)

※本カタログ中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。  
 ※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記していません。  
 ※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。



本カタログ掲載商品・サービスの詳細情報  
[www.hitachi-solutions.co.jp/plm/](http://www.hitachi-solutions.co.jp/plm/)